

国立国語研究所学術情報リポジトリ

「阪急文化アーカイブズ」を利用した日本語研究 / 言語景観研究の可能性

著者	岡田 祥平, 正木 喜勝
雑誌名	言語資源活用ワークショップ発表論文集
巻	5
ページ	85-102
発行年	2020
URL	http://doi.org/10.15084/00003148

「阪急文化アーカイブズ」を利用した 日本語研究／言語景観研究の可能性

岡田 祥平（新潟大学人文社会科学系）

正木 喜勝（公益財団法人阪急文化財団）

The Possibility of Research on Japanese Language or Linguistic Landscape Using ‘Hankyu Culture Archives’

Shohei Okada (Niigata University)

Yoshikatsu Masaki (Hankyu Culture Foundation)

要旨

2017年4月1日、公益財団法人阪急文化財団は、財団が所有する各種資料をインターネット上で検索・閲覧できる「阪急文化アーカイブズ」を公開した。「阪急文化アーカイブズ」で検索・閲覧できる資料の中でも、1910年の開業以来阪急電鉄が手がけた事業に関する揭示物や、阪急沿線のイベントを告知する揭示物である「阪急・宝塚ポスター」類は、日本語研究、中でも言語景観研究の貴重な資料となり得る可能性を秘めていると思われる。

本稿では、「阪急文化アーカイブズ」の概要を紹介したうえで、「阪急文化アーカイブズ」を利用した日本語研究、中でも言語景観研究の簡単な実践例を示す。そのうえで、「阪急文化アーカイブズ」を利用した日本語研究、中でも言語景観研究の可能性と限界を考える。

1. はじめに

「現代日本の多言語状況の見取り図を提供し、それに関連したキーワードの解説をまとめた」(真田・庄司 2005)『事典 日本の多言語社会』(真田信治・庄司博史[編]・岩波書店・2005年)には、「日本の多言語景観」という項目がある。そして、その項目は、以下のようない節から始まる(バックハウス 2005)。

言語景観という概念は一般的に「道路標識、広告看板、地名表示、店名表示、官庁の標識などに含まれる可視的な言語の総体」と定義されている。言い換えれば、言語景観は街中のあらゆる表示に見られる書き言葉である。日本の言語景観を簡単に分類すると、1) 日本語しか含まない単一言語表記と、2) 日本語以外、あるいは日本語の代わりに、ほかの言語を含む多言語表示がある。

バックハウス(2005)から10年以上を経た現在、近年の日本語研究においては、「これら街で見られる言語表示の状況と変化に注目した「言語研究」の研究が数多く行われるようになっている」(生越 2018)¹。

¹ 国立国語研究所の「日本語研究・日本語教育文献データベース」(中野・渡辺 2013)と国立情報研究所の「CiNii Articles」で「言語景観」をキーワードに検索を掛けて得られたヒット件数をまとめたものが、次ページの付表である。この付表からは、特に2010年前後以降、言語景観研究が精力的に行われている様子をうかがうことができる(このような動向に関しては、2009年に主に日本における言語景観を取り扱った庄司ほか(2009)が出版されたことがepoch-makingなと思ったと思われる)。

その一方で、言語景観研究の対象となる「道路標識、広告看板、地名表示、店名表示、官庁の標識など」（これらを指して、以下、「言語景観資料」と表記する）は、永続性・保存性という観点からは、非常に危うい存在である。というのも、何らかの事情で言語景観資料が街中から撤去されることは日常茶飯事であるし、いったん撤去された言語景観資料を、研究者が後日、収集することも極めて難しいからである。そのため、言語景観研究においては、研究者が街中で偶然見かけた「興味深い」と思える言語景観資料を記録に残す（すなわち、写真撮影をする）ことが極めて重要になる。すなわち、言語景観研究は、研究者の日常生活における「邂逅」と「収集・保存」に依存する部分も大きいわけである。しかも、言語景観資料には上述したように、永続性・保存性に課題がある。そのような事情もあり、特に言語景観に関する通時的な研究を行う場合には、永続性・保存性をめぐる困難点²を克服する必

付表 「日本語研究・日本語教育文献データベース」および「CiNii Articles」における「言語景観」を検索結果の経年変化

	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995
日本語研究・日本語教育文献データベース						1			1				
Cinii Articles	1					1							
	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
日本語研究・日本語教育文献データベース										1		5	1
Cinii Articles												5	5
	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	
日本語研究・日本語教育文献データベース	11	8	23	11	8	6	9	10	8	4			
Cinii Articles	4	8	11	15	12	9	12	16	15	15	17	3	

※付表で空欄となっている年は、ヒットした文献が存在していないことを意味する。なお、「日本語研究・日本語教育文献データベース」で年以降の件数が空欄になっているのは、当該データベースに新しい文献が反映するまで、多少の時間がかかるためだと思われる。

※※1982年以前にヒットした文献はない。

※※※二つのデータベースの検索結果には重複する部分は非常に多いが、「CiNii Articles」には、(当然)日本語研究以外の文献も含まれている(たとえば、「CiNii Articles」の検索結果からは、日本語研究以外の分野においても、「言語景観」という用語を用いた文献が発表されていることが分かる。具体的には、大平(2019)や松井(2020)など)。

なお、現代日本社会の多言語化に伴い、近年の日本語を対象とした言語景観研究は、バックハウス(2005)のいう「2」日本語以外、あるいは日本語の代わりに、ほかの言語を含む多言語表示について、精力的に展開されている印象を受ける。たとえば、2019年4月に発行された『ことばと文字』11号(くろしお出版)は言語景観研究の特集号であるが、当該号に掲載された言語景観研究の論考の多くは、バックハウス(2005)のいう「2」の側面を考察している。また、本田・岩田・倉林(2017)は言語景観研究の成果を生かした一般書であるが、当該書籍もバックハウス(2005)のいう「2」の側面を強く意識した内容となっている。

² 言語景観研究に付随するこのような困難点に関して、京都市の祇園地域を渉猟して、当該地域における言語景観資料に観察された漢字表記「祇園」の「祇」の多様性(異体字)の問題(「祇」か「祇」か「祇」か、など)を考察した當山(2014)には、以下のような指摘がある。

景観文字研究という研究分野は、これからの領域である。

第一の理由は、デジタルカメラの利用なくしては、この種の研究はできない。(中略)安価に大量の画像データを収集できる、デジタルカメラとパソコンの機能のおかげで、この研究は成り立つ。

第二に、GIS(地理情報システムとの連携)である。(中略)現在では、デジタルカメラ画像に、GPS情報を付加する、そして、それをデジタル地図上にマッピングすることが、いとも容易にできるようになっている。

(中略)

また、今回(二〇一二年)の調査の時に気付いたこととして、文字がなくなってしまう、という

要がある。

本稿では、言語景観資料が抱える永続性・保存性の問題を克服する方策の一つとして、公益財団法人阪急文化財団が構築した「阪急文化アーカイブズ」の可能性を考えたい。具体的には、まず、2. で「阪急文化アーカイブズ」の概要を説明する。そのうえで、3. から5. では（特に3. では）「阪急文化アーカイブズ」を活用した日本語研究／言語景観研究の可能性について、実例を挙げながら考える（「阪急文化アーカイブズ」の具体的な検索方法も、ここで紹介する）。最後に、6. で、日本語研究、中でも言語景観研究に「阪急文化アーカイブズ」を利用することの可能性と限界、さらには留意点について、簡単にまとめる。

2. 「阪急文化アーカイブズ」の概要

池田文庫・逸翁美術館・小林一三記念館を運営する公益財団法人阪急文化財団によって構築され、2017年4月1日、公開された「阪急文化アーカイブズ」では、主に池田文庫の所蔵品の一部をインターネット上で検索できる。

1949年、私立図書館として大阪府池田市に開館した池田文庫は、1932年に現在の兵庫県宝塚市に開設された宝塚文芸図書館を前身とし、さらには1915年開室の宝塚新温泉内図書館までさかのぼることができる。現在、池田文庫は、娯楽施設および社会教育施設として存在する一方、かねてより運営母体である阪急電鉄株式会社の史料、宝塚歌劇や歌舞伎をはじめとする演劇史料の収集にも努めている。その活動の一部が、「阪急文化アーカイブズ」として結実したわけである。

2. 1 収録資料の概要

「阪急文化アーカイブズ」に検索できる資料は、大きく以下に示す3カテゴリに分けられる³（なお「①阪急・宝塚ポスター」と「②浮世絵・番付」については、一部を除き、インターネット上で資料の画像も閲覧できる）。

① 阪急・宝塚ポスター： 約1万5,000点

鉄道・歌劇・住宅・百貨店・ホテル・スポーツ・レジャーなど、1910年の開業以来阪急電鉄が手がけた事業に関するポスター類や、寺社の年中行事など沿線のイベントを告知するポスターなどが含まれる。企業史や劇団史の枠にとどまらず、沿線に育まれてきた生活文化や、身近な歴史を伝える貴重な資料群である。

②浮世絵・番付： 約3万点

江戸時代中期以降の歌舞伎に関するものが多く、役者絵のほか、劇場に掲げられた明治時代の絵看板も含まれている。池田文庫所蔵品の特色である上方絵（京・大坂で作成された役

ことがある。店舗の看板などは、その店が廃業すればなくなってしまう。逆に、新しく出現した文字もある。これに対して、文献資料の文字は消えて無くなるなどということは、基本的にあり得ない。景観文字は、研究資料としては、非常に興味深い対象であるが、ある意味で、あやうい点もあわせもっている。今後は、景観文字について、その記録や整理についての方法論の確立が重要な課題となるであろう。

當山(2014)は、言語景観研究の中でも文字に着目した「景観文字研究」について述べられたものである。ただ、當山(2014)の指摘は、景観文字研究のみならず、言語景観研究全般にも当てはまることであろう。

³ 他に、逸翁美術館所蔵の美術品など、これらに属さない資料を閲覧できる「④特集欄」というカテゴリも設けられている。「④特集欄」は、設定されたテーマごとに資料の情報と画像を閲覧できる、「インターネット上の展覧会」とも表現すべき位置づけである。

者絵)も6,000点以上公開している。浮世絵の愛好者はもちろん、演劇史研究にも寄与するところが大きい資料群である。

② 民俗芸能： 約3,000点

宝塚歌劇団の郷土芸能研究会が、舞台化を目的に1950年代から1970年代にかけて取材した民俗芸能の録画・録音メディア、レポートなどで、2003年に池田文庫に移管された資料群である(これらの資料の中には、日本各地はもちろん、世界各地の舞踊も含まれている)。その資料群の目録が「阪急文化アーカイブズ」で検索できるわけであるが、視聴は池田文庫内に限られる。

日本語研究、中でも言語景観研究の資料として活用できる可能性を多分に秘めていると考えられるのは、「①阪急・宝塚ポスター」である(詳細は、3.から5.も参照)。

2. 2 検索方法： 「阪急・宝塚ポスター」を中心に

「阪急文化アーカイブズ」を制作するにあたり、とくに重視した点の一つが、利用のしやすさである。そこで、操作の容易さに加えて、誰もが検索方法やキーワードに精通しているわけではないという前提で、いかにコンテンツを提示していくべきか、検討が重ねられた。その結果、トップページでは、2.1で示した①から③の3つの資料群を横断して検索できるように設計された。すなわち、「阪急文化アーカイブズ」のトップページにある「横断検索」の窓に自身が検索したいキーワードを入力すれば、2.1で示した①から③の3つの資料群を横断して検索できるというわけである⁴(図1参照)。



図1 「阪急文化アーカイブズ」・トップページ①： 「横断検索」画面

もちろん、2.1で述べた①から③の資料群を、カテゴリ別に検索することもできる。

カテゴリ別に検索したい場合は、「阪急文化アーカイブズ」のトップページにおいて、「横断検索」窓の下に表示される「カテゴリ別検索」のセクション(図2参照)から、自身が検索したい資料群を選択すればよい。

⁴ なお、「横断検索」の窓の下には、検索キーワードの例が示されている(図1参照)。例示されるキーワードは、定期的に入れ替えている。

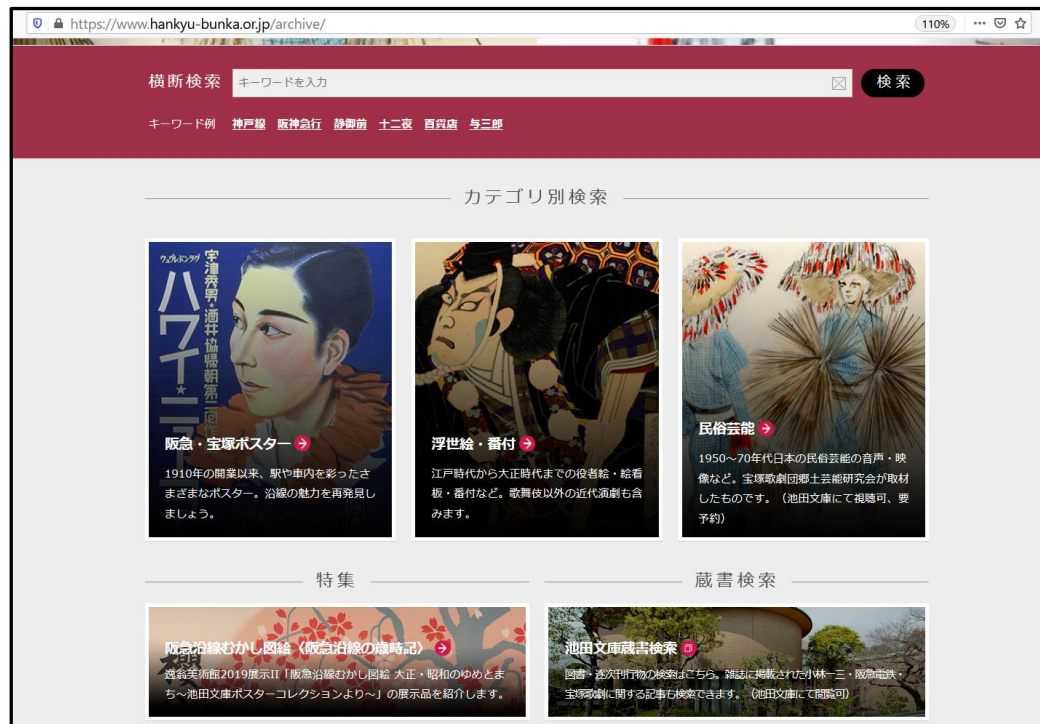


図2 「阪急文化アーカイブズ」・トップページ②：「カテゴリ別検索」画面

日本語研究, 中でも言語景観研究の資料として活用できる可能性を持つと考えられる「① 阪急・宝塚ポスター」に限定して検索をする場合は、「カテゴリ別検索」画面（図2）の左側にある「阪急・宝塚ポスター」を選択する⁵。そうすると、「阪急・宝塚ポスター」に限定して、キーワード検索ができる画面（図3）に移動する。



図3 「阪急文化アーカイブズ」・「阪急・宝塚ポスター」検索画面

上述した手順により、検索対象を「阪急・宝塚ポスター」に限定した検索画面（図3）の「キーワード」窓に任意のキーワードを入れ、検索するだけでも興味深い結果を得ることができる（たとえば、3. を参照）。一方、さらに詳細な条件を設定して検索することもできる（4. も参照）。

詳細な条件を設定して検索を行いたい場合は、「阪急・宝塚ポスター」の検索画面（図3）

⁵ 紙幅の都合上、他の二つのカテゴリの検索の詳細については、本稿では説明を割愛する。

にある「詳細検索」を選択すればよい。そうすると、図4のような画面が表示される。

図4 「阪急文化アーカイブズ」・「阪急・宝塚ポスター」の「詳細検索」画面の一部

「阪急・宝塚ポスター」の「詳細検索」(図4)で設定できる検索条件は、以下のとおりである。

- ・**キーワード**：カテゴリ内の以下の全項目について，指定することが可能。
- ・**分類**：ポスター内容の分類を選択することが可能。「分類1」(大分類)として設定されているカテゴリは、「鉄道・乗り物」「おでかけ・レジャー」「宝塚歌劇・芸能」「スポーツ」「お買い物・サービス」「寺社・おまいり」「ホテル」「住まい・不動産」「阪急文化財団」「その他」の10種類である(4.で示した図6も参照)。さらに、それぞれのカテゴリの下に、下位分類(「分類2」)が設定されている(4.で示した図7も参照)。
- ・**デザイナー**：デザイナー名，キャラクターの制作者等の指定が可能。
- ・**年**：イベント開催年やポスターの制作・掲出年(西暦4桁)を指定することが可能(期間・以降・以前といった諸条件での指定も可能)。
- ・**年月日**：イベント開催等の年月日(開始日，もしくは終了日)を指定することが可能。
- ・**場所**：イベント開催地や関連する場所を指定することが可能。
- ・**被撮影者**：ポスターに写っている人物の名を指定することが可能。
- ・**タイアップ**：タイアップの社名や商品名を指定することが可能。
- ・**内容**：イベント名，キャッチコピー等の文字情報を指定することが可能。ただし，検索の便を優先し，適宜省略または補足している。
- ・**演目**：演劇のタイトル，副題，宝塚歌劇のジャンル表記を指定することが可能。
- ・**幕・場・景**：演劇の幕数，場数，景数を指定することが可能。
- ・**劇団・主催**：演劇の上演団体名を指定することが可能。
- ・**組**：宝塚歌劇団の組を指定することが可能。
- ・**スタッフ等**：演劇の作者，演出者，原作者等を指定することが可能。

- ・判型・寸法： ポスターのサイズを指定することが可能。
- ・阪急最寄駅： イベント開催地の最寄駅（阪急・能勢電鉄等）⁶を指定することが可能⁷。

以上、「阪急文化アーカイブズ」の検索方法、特に「①阪急・宝塚ポスター」を対象にした場合について簡単に説明したが、上述したような検索作業、ならびに検索結果の閲覧がすべてがインターネット上で行うことが可能という点も、「阪急文化アーカイブズ」の利点の一つであろう。一連の作業がインターネット上で行えることは、調査を行うにあたっての種々の負担を軽減につながると考えられるからである。

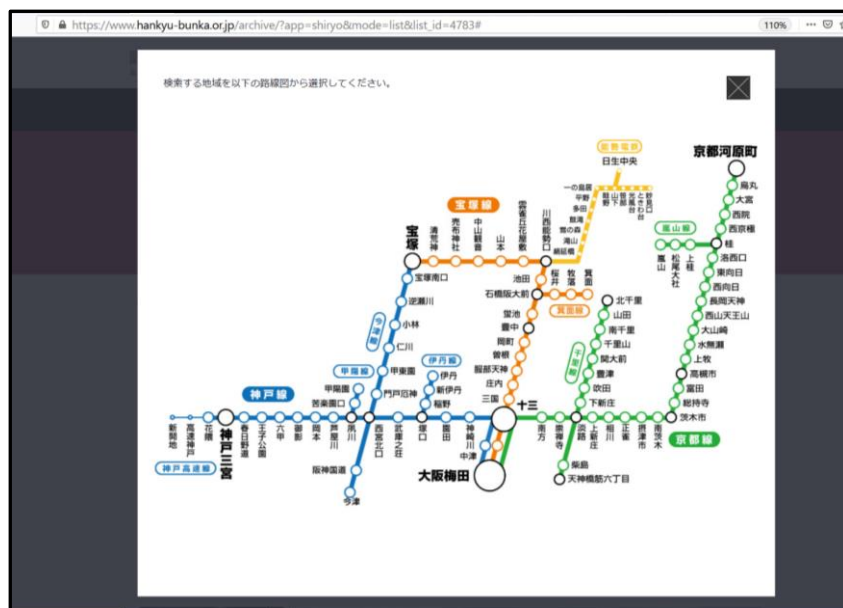
なお、日本語研究、中でも言語景観研究に「阪急文化アーカイブズ」に収録された「①阪急・宝塚ポスター」を利用する場合の検索方法については、次節以降でも触れる（特に、3.3での議論を参照のこと）。

2. 3 メタデータおよび画像

「阪急文化アーカイブズ」のコンテンツを支えるメタデータと画像は、いずれのカテゴリも基本的に既存のものを利用している⁸。しかしながら、単に既存のデータを流し込めばよいというものではなかった。というのも、既存のメタデータには誤記が多く、また各データ項目の定義自体も曖昧であったためである。結果として、資料を1点ずつ確認して適宜メタ

⁶ 原則としてポスター記載情報に準拠しているため、現在の状況とは異なることがある。また、阪急・能勢電鉄からバスやケーブルに乗り換える場合は、その乗換駅を最寄駅と見なしている。さらに、ポスターに記載がないものは、他の資料や慣例に基づき目安として最寄駅を入力している。

⁷ パソコン版であれば、「路線図」からの選択も可能である。「路線図」を利用して条件を指定する場合、パソコン版の「阪急文化アーカイブズ」の「阪急・宝塚ポスター」検索画面（図3）において、「キーワード」検索窓の下にある「路線図から選択」を選択する。すると、以下に示した付図1のような画面が開く。あとは表示された「路線図」の中から、自身が検索したいと思う駅を選択すれば、選択した駅に関する資料が検索できるというわけである。



付図1 阪急文化アーカイブズ・「阪急・宝塚ポスター」検索の「路線図から選択」画面

⁸ 「①阪急・宝塚ポスター」については、簡易ながら1999年4月より池田文庫の館内端末で検索システムを運用していた。また、「②浮世絵・番付」「③民俗芸能」には冊子体目録があり、かつ市販のデータベースソフトで管理していた。「阪急文化アーカイブズ」構築に当たっては、それらの情報を利用したわけである。

データを修正するという膨大な作業が発生した。画像についても、画質に問題が認められるものも多く存在したが、資料保存の観点から必要と思われるものを除いて、「阪急文化アーカイブズ」のために再撮影などは行わなかった。

3. 「阪急文化アーカイブズ」を利用した日本語研究の可能性①： 地名の表記をめぐって

3. 1 京都市内の地名「祇園」の「祇」の漢字表記の多様性（異体字）について

「阪急文化アーカイブズ」を利用した日本語研究，中でも言語景観研究の可能性を示す一例として，ここでは，京都市内の地名「祇園」の「祇」の多様性（異体字）の問題（主に，「祇」か「祇」か「祇」か）について，「阪急文化アーカイブズ」に収録された「①阪急・宝塚ポスター」を対象に，「祇園」の「祇」の漢字表記について調査を行った結果を，簡単に紹介したい。

この問題は，當山日出夫氏によって精力的に研究されている⁹。中でも（註2で引用した）當山(2014)では，主に京都・祇園地域における言語景観資料を対象とし¹⁰，2006年と2012年の2回，そこに観察される「祇園」の「祇」の漢字表記の実態を調査した結果，経年変化が認められることが指摘されている¹¹。そして，このような経年変化が認められる背景として，當山(2014)では，コンピュータ文字の存在を指摘している¹²。

當山(2014)は，京都・祇園地域を當山氏自身が渉猟し，実地調査を行った成果，しかも，2006年と2012年と時間を隔てて同一地域における言語景観を報告したものであり，きわめて貴重である。その一方で，（当然ではあるが）2006年と2012年以外における実態は不明である。しかし，「阪急文化アーカイブズ」を利用すれば，當山(2014)の成果に，新知見を加えることができると思われる。

なお，「阪急文化アーカイブズ」を利用した日本語研究，中でも言語景観研究の一例として，京都市内の地名「祇園」の「祇」の漢字表記について調査を行う背景は，當山氏による研究が存在していることに加え，「阪急文化アーカイブズ」に収録された資料の性格も関係する。

2. 1で述べた通り，「阪急文化アーカイブズ」に収録されている資料群のうち，言語景観研究に利用できるであろう「①阪急・宝塚ポスター」は，阪急電鉄の沿線のイベントを告知するものが，多数含まれている。そして，今回の小調査に関連して重要なのは，阪急電鉄の主要路線である京都線の終着駅・京都河原町駅は，（京阪電車の祇園四条駅とともに）京都・祇園地域の玄関口的な位置にあるという点である¹³。そのような事情も関係し，「阪急文化アーカイブズ」に収録されている「①阪急・宝塚ポスター」には，京都・祇園地域に関連する諸行事（代表的なものとしては祇園祭）のものも少なくない。したがって，「阪急文化アーカイブズ」に収録されている「①阪急・宝塚ポスター」からは，「祇園」の用例が多数

⁹ 1. で引用した當山(2014)以外に，當山(2006a・b, 2007a・b・c・d)などがある。

¹⁰ 當山(2014)で言及されている言語景観資料は，主に，①京都・祇園地域に所在するポストに記載されている所在地情報，②稲荷神社の鳥居と朱塗りの柵に記載されている，鳥居の寄進者名，③京阪祇園四条駅の駅名表示，④京都市バスの行き先表示，⑤祇園商店街の看板，の5種類である。

¹¹ ただし，経年変化の実態は，調査対象によって複雑な様相を見せる。その詳細は，當山(2014)を参照。

¹² 具体的には，コンピュータに実装される文字が「祇」（「JIS X 0208」による。Windows XP まで）から「祇」（「JIS X 0213」による。Windows Vista 以降）に変更されたことや，「ぎおん」と入力して漢字変換した際に示される候補に「祇園」も含まれることを指摘している。

¹³ 二つの鉄道会社の略称は，それぞれの会社のウェブページに掲載されている会社のロゴにある表現に依った。詳細は，阪急電鉄のホームページ（<https://www.hankyu.co.jp/>）と京阪電車のホームページ（<https://www.keihan.co.jp/>）を参照のこと。

含まれることが予想されるわけである。

以上のように、関連する先行研究も存在する（當山(2014)など）うえに、多くの用例を看取できそうであるため、今回、「阪急文化アーカイブズ」を利用した日本語研究、中でも言語景観研究の可能性を示す一例として、京都市内の地名「祇園」の「祇」の多様性（異体字）の問題を取り上げた次第である。

3. 2 調査手順

今回の調査では、まず、「阪急文化アーカイブズ」のトップページ（図2）から、「阪急・宝塚ポスター」のカテゴリを選択して検索を行い（2. 2も参照）、調査対象を「①阪急・宝塚ポスター」に限定した。そのうえで、「阪急・宝塚ポスター」に限定した検索ページ（図3）で、「祇園」に加え、「祇園」「祇園」という3種類の漢字表記をキーワードにして検索を実行した（3種類の漢字表記で検索をした理由については、3. 3を参照）。そして、検索結果から、インターネット上で画像が確認できた88件の資料について、「祇園」の「祇」の漢字表記を目視で確認した。その結果、189例の用例を看取することができた。

3. 3 「阪急文化アーカイブズ」を日本語研究に利用する際の留意点

（2. の冒頭で述べた「阪急文化アーカイブズ」が構築された経緯からも推察できるかもしれないが）「阪急文化アーカイブズ」は日本語研究に利用されることを念頭に置いて設計されたものではない。そのため、「阪急文化アーカイブズ」を日本語研究に利用する際には、いくつかの留意点がある。ここでは、調査結果の紹介をする前に、それらの留意点について、簡単に触れておく。

第一は、検索を行うにあたっては、様々な表記を念頭に置く必要がある点である。今回の場合であれば、（コンピュータで表示できる）「祇園」「祇園」「祇園」という3種類の表記で検索を行った。その結果、「祇園」ではヒットしなかったのに対し、「祇園」と「祇園」でそれぞれ93件がヒットした。つまり、「祇園」という漢字表記だけで検索を行った場合には、そもそも目的となる資料にたどり着けなかったということを意味する。この事実からも分かる通り、「阪急文化アーカイブズ」で検索を行うにあたっては、複数の表記を念頭に置き、それぞれに表記で検索を試す必要があるわけである。

第二に、資料に記載されている全文字列を検索できるわけではない点である。2. 2でも触れた通り、「阪急文化アーカイブズ」では、資料の内容を対象についても検索をすることが可能である。ただ、資料に記載されている文字列すべてがメタデータとして登録されているわけではない。たとえば、祇園祭のPRポスターである資料No. E01-02083には、祇園祭の詳しい日程に加え、「14・15・16日は臨時電車を大增発！」「●おねがい 烏丸駅東改札口は、ホーム延伸工事のため閉鎖しています。祭の期間中大変混雑しますので、なるべく大宮・河原町駅をご利用ください。」といった注記があるなど、非常に多くの情報が記載されている¹⁴。しかし、この資料に対して「阪急文化アーカイブズ」で付与されているメタデータは、「京都祇園祭 臨時列車を大增発！ 烏丸駅東改札口（河原町方面）は、ホーム延伸工事のため閉鎖」だけである。この例からも分かる通り、「阪急文化アーカイブズ」に付与されたメタデータは、資料の記載内容を正確に反映しようと細心の注意が払われているものの、

¹⁴ 「阪急文化アーカイブズ」のトップページの「横断検索」窓に、資料No.である「E01-02083」と入力し検索を実行すれば、インターネット上でこの資料の画像を閲覧することが可能である。

資料に掲載された文字情報を忠実に反映しているわけではない（つまり、「阪急文化アーカイブズ」では、資料に掲載された文字列の検索ができるわけではない）のである。したがって、当然ながら、「阪急文化アーカイブズ」でキーワード検索を行った結果の件数は、キーワードとして入力した語・表現の用例数ではない。実際、ここで紹介した資料 No. E01-02083 には、「祇園」の用例が 5 例看取されたが、検索結果としては 1 件とカウントされている。

第三に、（第一、第二の留意点と関連して）資料に掲載されている表記とメタデータの表記が必ずしも一致しない点である。たとえば、前段落で言及した資料 No. E01-02083 には「祇園」の用例が 5 例看取されたわけであるが、5 例がすべて同じ表記というわけではなかった。実は、5 例中 4 例が「祇園」、1 例のみが「祇園」という表記で、同一資料内で表記のゆれが看取されたわけである。ただ、当該資料に付与されたメタデータは、（前段落で述べた通り）「京都祇園祭」である。資料画像を確認することで、初めて当該資料で「祇園」「祇園」という 2 種類の漢字表記が使用されている事実が分かるわけである。

第二、第三の留意点を踏まえると、「阪急文化アーカイブズ」を日本語研究に利用する際には、検索結果について、当該資料の画像を閲覧し、実際の記載、記述内容を確認する必須となる。幸い、「阪急文化アーカイブズ」での検索結果について、ほとんどの場合、インターネット上で資料の画像を閲覧することができる。ただ、諸事情により、中には画像を公開していない場合もあるという点には留意したい¹⁵。今回の調査であれば、「祇園」と「祇園」をキーワードにした検索結果 93 件のうち、5 件がインターネット上で資料の画像を見ることができなかった。たとえば、資料 No. E01-10136 は、付与されたメタデータによると「京阪神三都夏祭り 祭りの関西、まっさかり。 神戸まつり、祇園祭、天神祭」という内容であり、3. 2 で述べた手順で実行した検索にはヒットした。しかし、当該資料の画像が「阪急文化アーカイブズ」では公開されていないため、当該資料において「祇園」がどのように表記されているかは確認できなかった。さらには、資料の画像が公開されていた場合であっても、諸般の事情により画質が必ずしも理想的でないものも含まれており（2. 3 も参照）、資料に記載されている文字列が判読できない場合もあることにも留意したい。

3. 4 調査結果

3. 3 で触れた留意点を踏まえつつ、3. 2 で述べたような手順で、「阪急文化アーカイブズ」に収録された「①阪急・宝塚ポスター」に看取された祇園の漢字表記 189 例について、年ごとに用例数をまとめたのが、次頁の表 1 である

表 1 からは、いくつかの興味深い事実を読み取ることができるが、まず特筆すべき点は、1940 年代から用例が認められるという点にあらう。1. でも触れた通り、言語景観研究の対象である資料は、多くの場合、永続性・保存性といった点において、問題があった。しかし、「阪急文化アーカイブズ」を利用すれば、古い時代の言語景観研究の資料も簡単に確認できるということが、表 1 から確認できる。一方で、最も新しい用例が 2009 年からも分かる通り、最新の資料が時間を置かず「阪急文化アーカイブズ」に収録されるわけではない、ということにも留意したい。

さて、京都市内の地名「祇園」の「祇」の漢字表記であるが、少なくとも阪急電鉄のポスター類においては、「祇」か「祇」のゆれの問題として考えられそうである¹⁶。そこで、1950

¹⁵ インターネット上では公開されていない資料についても、池田文庫内の端末からは閲覧することが可能である（池田文庫内で限定公開している）。

¹⁶ 當山(2014)が、種々の資料では看取されると報告している「祇園」という漢字表記であるが、「阪急文化

年以降について、10 年刻みで「祇園」と「祇園」の比率を求め、図示したものが、以下の図 5 である。

表 1 「阪急文化アーカイブズ」の「①阪急・宝塚ポスター」における
京都市内の地名「祇園」の漢字表記の用例数の経年変化

	1947	1952	1953	1954	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1966	1967	1968	1969
<u>祇園</u>		1		1	2	2		1	1	1	2	1			2	2
<u>祇園</u>	1															
<u>祇園</u>			1													
<u>祇園</u>						2	2						1	1		
	1970	1972	1974	1975	1976	1977	1979	1980	1984	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994
<u>祇園</u>	1	7	4	3		10	5	4	4		7	4	3	3	2	1
<u>祇園</u>																
<u>祇園</u>																
<u>祇園</u>	1	9			4				1	5		1		1	2	9
	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	
<u>祇園</u>	1	2		4						4	1	2	3	2	1	
<u>祇園</u>																
<u>祇園</u>																
<u>祇園</u>	3	11	8	8	3	1	3	1	1	1	4	1	1	7	1	

※「祇」が隣の「氏」の下に横棒がある漢字を意味する。

※※空欄は、用例が看取されなかったことを意味する。

※※※表中に示されてない年は、用例が看取されなかったことを意味する。

※※※※3. 3の末尾に記した事情により、文字の判読に迷った資料もいくつか存在したが、今回はそのようなものであっても、筆頭著者の岡田の判断により、いずれかのカテゴリに分類した。

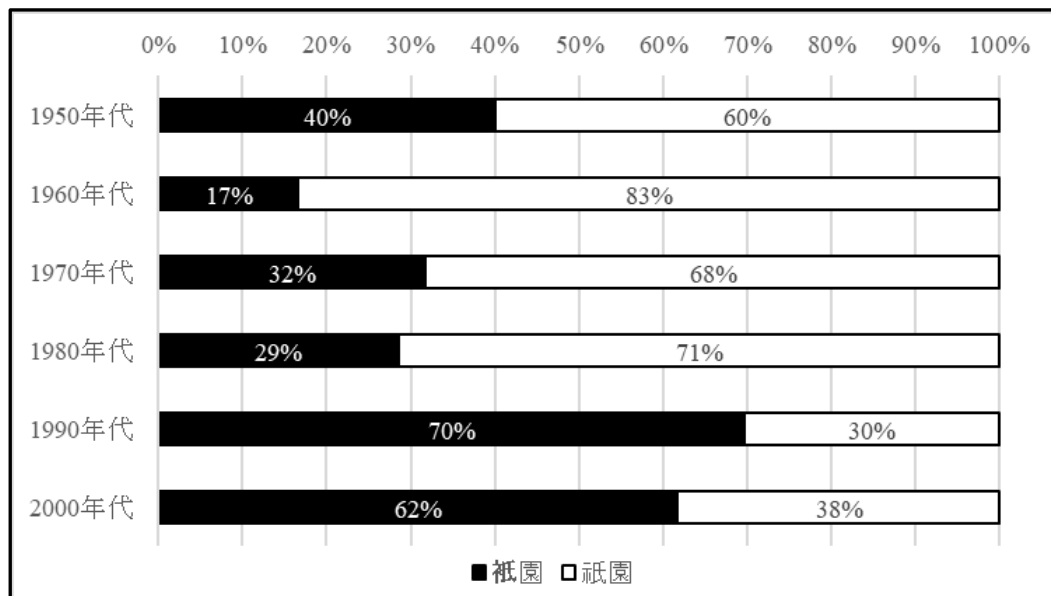


図 5 「阪急文化アーカイブズ」の「①阪急・宝塚ポスター」における
「祇園」と「祇園」の比率の経年変化

図 5 を見る限り、少なくとも阪急電鉄のポスター類においては、1980 年代までは「祇園」

アーカイブズ」を利用した今回の調査結果からは、1947 年以外に用例を看取することができなかった。また、「祇」の隣の下部に横棒が入ったものも、1953 年に 1 例のみ、看取されるだけであった。なお、「祇」は、「辞書的規範」(當山 2014)からは誤字(=「祇」は「祇」「祇」とは別字)である。

が優勢だったのに対し、1990年代以降は「祇園」が優勢になることがわかる。當山(2014)では、殊、京都市バスの各種表記においては「祇園」から「祇園」に統一しようとする動きを見て取れるとの指摘があるが、阪急電鉄のポスターの場合は、京都市バスとは異なる傾向を読み取れるというわけである¹⁷。

また、3.3でも少し触れたが、今回の調査では、同一資料において、「祇園」と「祇園」のゆれが観察された場合があった（調査対象とした88件の資料中、10件）。そのような資料における「祇園」と「祇園」の用例数を示したものが、以下の表2である。

表2 阪急文化アーカイブズの「①阪急・宝塚ポスター」において「祇園」と「祇園」の双方が看取された資料の用例数の内訳

資料番号	制作年	祇園	祇園
E01-04926	1958	1	1
E01-04077	1970	1	1
E01-03204	1972	2	2
E01-03784	1972	4	1
E01-02083	1984	1	4
E01-06165	1990	1	4
E01-10580	1992	1	1
E01-09853	1993	2	1
E01-11097	1996	3	1
E01-11842	1998	1	4

表2では用例数が多い漢字表記のセルを薄く塗りつぶしているが、表2を見ると、同一視領域内においてどちらの漢字表記が優勢になるかは、時代による違いがあるようにも見える（1980年代は「祇園」が、1990年代は「祇園」が優勢のようにも見える）。ただし、実際の資料画像を見ると、時代的な傾向があるのではなく、当該資料で使用されているフォントによる違いが反映したようにも思える。この点については、今後の課題としたい。

3.5 本節のまとめ

以上、本節では、「阪急文化アーカイブズ」を利用した日本語研究、中でも言語景観研究の可能性を示す一例として、「阪急文化アーカイブズ」に収録されている資料群のうち、「①阪急・宝塚ポスター」を対象にキーワード検索を行い、京都・祇園の漢字表記の多様性（異体字）に関する調査の結果を紹介した。阪急電鉄沿線には多様な表記を持つ地名や観光名所

¹⁷ 一方、當山(2014)は、京阪電車の「祇園四条」駅（2008年に「四条」駅から改称）における駅名表示板は、「祇園」で統一されていると指摘している。その理由として、當山(2014)は、京阪電車のウェブページ（京阪電車の「おでかけナビ」の祇園四条駅）にある「「祇園四条」の「祇」の字が、一部環境によっては「祇」と表示されますが、正しくは「ネ」へんに「氏」です」という記述も根拠として示し、京阪電車には祇園四条駅の漢字表記は「祇園」に統一しようとする方針に基づくものである、と結論付けている。

なお、本稿執筆時に、本稿の執筆者の一人である岡田が、當山(2014)が紹介している京阪電車の当該ページを確認したところ（岡田のパソコンの環境はWindows10 Pro・Firefox79.0）、ページ内の文章（テキストデータ部分）は（「祇園」ではなく）「祇園」と表示された。同時に、当該ページでは、「祇園四条」との漢字表記の駅名表示板の画像が掲載されている。つまり、少なくとも岡田のパソコンの環境で京阪電車の「おでかけナビ」の祇園四条駅のページを閲覧すると、文章内では「祇園」、駅名表示板の画像では「祇園」になっていることに加え、上に引用したような注記があり、統一感に欠けた、ちぐはぐな状態となっている。

がほかにも多く存在しており、それらの地名や観光名所について、ここで紹介したような手法を用いて調査を行うことも可能である¹⁸。さらには、地名以外の表記のゆれに関する調査も可能であろう¹⁹。あとは、どのように活用するか、アイデア次第で、可能性は広がるのではないかと思われる。

4. 「阪急文化アーカイブズ」を利用した日本語研究の可能性②：

注意喚起の表現をめぐって

前節では、「阪急文化アーカイブズ」を利用した日本語研究、中でも言語景観研究の可能性を示す一例として、「阪急文化アーカイブズ」に収録されている資料群のうち、「①阪急・宝塚ポスター」を対象にキーワード検索する手法を紹介した。しかし、2. 2でも紹介した通り、「阪急文化アーカイブズ」ではキーワード検索以外にも、「詳細検索」にて種々の条件を設定して検索することが可能である。そこで、本節と次節では、「阪急文化アーカイブズ」の「詳細検索」の機能を活用し、3. で報告した小調査からは異なった角度から、「阪急文化アーカイブズ」を利用した日本語研究、中でも言語景観研究の可能性を紹介したい。

註1でも紹介した、日本語の言語景観研究に関する一般書である本田・岩田・倉林(2017)には、街中で見られる注意喚起の掲示物について考察した章が設けられている²⁰。ただ、そこで取り上げられている注意喚起の実例は、著者らが日常生活で遭遇したものを写真撮影したものである。つまりは、いわゆる「現代」の実例に限定されており、言語景観資料における注意喚起の表現について、通時的な研究を行うことは困難だと思われる。

しかし、「阪急文化アーカイブズ」の「詳細検索」の機能を上手に活用すれば、そのような研究を行うことができる可能性が生まれる。具体的には、以下のような手順である。まず、「阪急文化アーカイブズ」のトップページ(図2)から、「阪急・宝塚ポスター」のカテゴリを選択したうえで(図3)、「詳細検索」を選択すると、図4として示した画面が表示される。その画面の「分類」の項目において、「分類1」のプルダウンメニュー(次頁・図6)で「鉄道・乗り物」を、「分類2」のプルダウンメニュー(次頁・図7)で「マナー」を、それぞれ選択し、画面最下部の「すべてに該当する条件で検索」を押す。すると、検索結果として、駅に掲示されたマナー喚起に関するポスター類が表示される(354件)。また、「分類1」のプルダウンメニュー(次頁・図6)で「鉄道・乗りもの」を、「分類2」のプルダウンメニュー(次頁・図7)で「駅」を、それぞれ選択したうえで検索を実行すると、駅に関するポスター類²¹が表示される(167件)。これらの検索結果から、資料の画像を確認すれば、阪急電鉄関連に限定された資料ではあるが、言語景観資料における注意喚起の表現について、通時的な研究を行うことができそうである。

もちろん、3. 3で述べた通り、「阪急文化アーカイブズ」では、資料に記載されている全文字列を検索できるわけではない。したがって、最終的には、検索の結果、ヒットした各種資料の画像について、調査者が資料に記載された表現を逐一、目視で確認する必要がある、それは相応の労力を要する。しかし、上述したような方法で「阪急文化アーカイブズ」を検

¹⁸ たとえば、「宝塚／寶塚／宝塚／宝塚／たからづか」、「箕面／みのお」、「摩耶山／まや山」、「神戸／KOBE」、「円満寺／圓滿寺」(大阪府豊中市にある寺院。「西国七福神」の一つ)、「滝安寺／瀧安寺」(大阪府箕面市にある寺院。「西国七福神」の一つ)など。

¹⁹ たとえば、「をどり／おどり」、「まいり／まゐり」、「えびす／ゑびす」、「万灯会／万燈会」など。

²⁰ 具体的には、「6 注意喚起が多すぎませんか」「7 注意喚起の内容と伝え方」(執筆は、いずれも岩田一成氏)。

²¹ 具体的には、駅工事のお知らせ、新駅開業のお知らせ、駅名変更のお知らせ、など。



図6 「阪急文化アーカイブズ」・「阪急・宝塚ポスター」の「詳細検索」画面：
「分類」の項の「分類1」のプルダウンメニュー

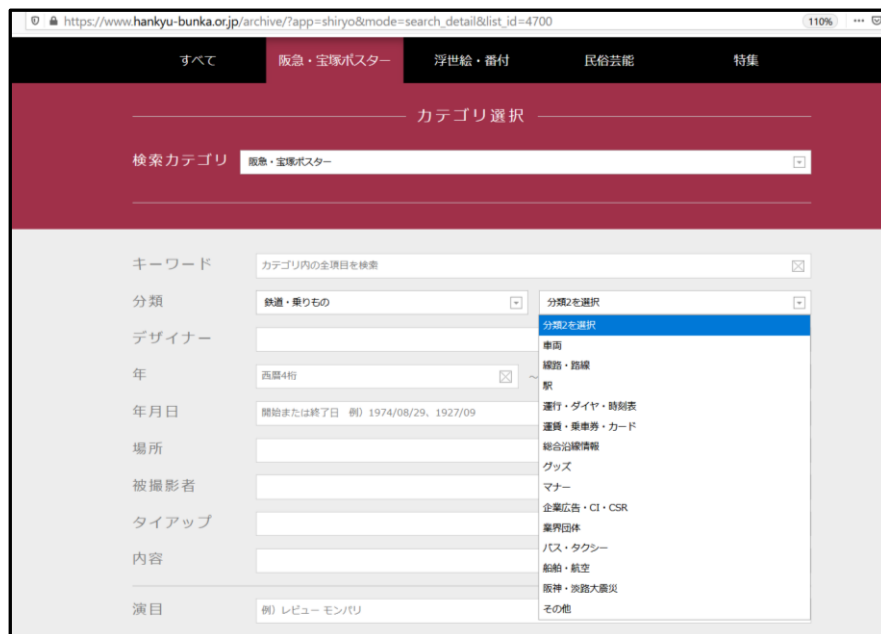


図7 「阪急文化アーカイブズ」・「阪急・宝塚ポスター」の「詳細検索」画面：
「分類」の項で「分類1」＝「鉄道・乗りもの」を選択した後に表示される
「分類2」のプルダウンメニュー

索すれば、ある程度、調査対象候補の資料が限定することができる。2. 1で紹介した通り、「阪急文化アーカイブズ」に収録された「①阪急・宝塚ポスター」は約1万5,000点もあり、その中から注意喚起の表現が記載された資料を見付け出すには、膨大な時間と労力を要するが、上述のような方法を用いれば、調査対象資料が数百点を絞ることができる。数百点の資料であれば、一個人であっても目視で確認可能な数であろう。

このように、「阪急文化アーカイブズ」・「阪急・宝塚ポスター」の「詳細検索」画面の「分類」の項を上手に活用すれば、上述したような注意喚起の表現に関する通時的な言語景観研究以外にも、様々な可能性が開けるのではないかと考える。

5. 「阪急文化アーカイブズ」を利用した日本語研究の可能性③： 書字方向をめぐって

ここまで「阪急文化アーカイブズ」を利用した日本語研究、中でも言語景観研究の可能性について考えてきた。最後に本節では、言語景観研究以外の日本語研究にも、「阪急文化アーカイブズ」を活用できる可能性について、簡単に触れておきたい。

「阪急文化アーカイブズ」を利用した日本語研究の一つの可能性としては、日本語の書字方向の変遷に関する研究への活用が考えられよう。

「阪急文化アーカイブズ」の「①阪急・宝塚ポスター」は、主に1920年以降に制作された資料が多数、収録されている。それらの資料は、「阪急文化アーカイブズ」の「阪急・宝塚ポスター」の「詳細検索」画面（図4）で年を指定して検索すると、年代ごとに閲覧可能である²²。日本語の書字方向の変遷に関しては、様々な資料を渉猟、駆使した屋名池誠氏による研究があるが（たとえば、屋名池(2003)）、「阪急文化アーカイブズ」の資料の中には、日本語の書字方向の変遷に関する従来の研究に、新知見をもたらすものも眠っているかもしれない。

6. おわりに

以上、本稿では「阪急文化アーカイブズ」を日本語研究、中でも言語景観研究に利用する可能性とその方法について、説明してきた。特に3. での議論をご参照いただければ、「阪急文化アーカイブズ」を利用すれば、日本語の言語景観（中でも「1）日本語しか含まない単一言語表記」（バックハウス 2005）のもの）に関する通時的な研究を展開する可能性があることを、ご理解いただけたのではないかな。

もちろん、「阪急文化アーカイブズ」を利用した日本語研究、中でも言語景観研究を行うにあたっては、種々の留意点がある。既にこれまでに述べてきたものも含まれるが、以下、重要だと思われる点を簡単にまとめた。

まず、言語資源としての位置付けである。具体的には、「阪急文化アーカイブズ」は阪急電鉄という一民間企業に関する資料についてのデータベースに「過ぎない」という点を留意すべきであろう。すなわち、「阪急文化アーカイブズ」を利用した日本語研究で明らかになったことは、調査した事象についての（当時の）一側面を明らかにしたに過ぎない、という点を常に念頭に置く必要がある。実際、3. で触れた京都市内の地名「祇園」の「祇」の多様性（異体字）の問題でも、3. 4で示した結果はあくまで阪急電鉄関連の資料だけを調査した導き出されたものであり、他の言語資源においても同様の変遷を見せると結論を出すのは極めて安易な姿勢であるということは、強調する必要がある（この点は、當山氏による一連の研究成果と比較、対比することで、より鮮明となる）。

では、「阪急文化アーカイブズ」を利用した日本語研究に価値がないかといえ、決して

²² ただし、資料が制作された時期が不明なものや、資料が制作された時期が正確には特定できないものも、多数存在する。たとえば、「阪急文化アーカイブズ」の「阪急・宝塚ポスター」の「詳細検索」画面（図4）で、1900年から1915年までの期間を指定して検索すると2件の資料がヒットするが、いずれも正確な制作時期が特定できないものである（画像確認画面で表示される制作年月日情報には、二つの資料とも「？」が付与されている）。

そうではないだろう。というのも、言語の研究を行うにあたっては、研究に利用できる言語資源に依存する側面があるからである。現代日本語の場合、理論上は、言語資源となる可能性を持った言語資料が日々新たに生産されているが、それらが全て言語資源として活用されている（できる）わけではない。すなわち、現代日本語研究においても、言語資源として活用されていない言語資料に現れる諸相は見落とされている可能性があるわけである。

過去の日本語を研究する際には、さらにその傾向が強くなる。なぜなら、過去の日本語を研究する際に利用できる言語資源（過去の日本語を記録した資料のうち、現在の研究で利用できる言語資料）は（非常に）限定されているからである。つまり、過去の日本語に関する研究は、限定された言語資源や言語資料を駆使して行われている／きたわけである。

以上のような事情に鑑みると、殊、過去の言語景観資料は消えてしまいやすい性格を持つ中、阪急電鉄関連のものに限定されるとはいえ、膨大な量の過去の言語景観資料にアクセスできる「阪急文化アーカイブズ」を利用して、日本語研究、中でも通時的な言語景観研究を行うことには、一定の価値を見出すことができるのではないかと考える。

もっとも、「阪急文化アーカイブズ」は日本語研究に利用されることを念頭に置いて設計されたものではない。そのため、「阪急文化アーカイブズ」を用いた日本語研究／言語景観研究を行うにあたっては、ここまで触れてきたように、種々の留意すべき点がある（「対象資料の文字列データが検索できるというわけではない」「検索の際には、表記のゆれの問題を考慮する必要がある」といった点など）。

最後に、「阪急文化アーカイブズ」に収録された資料の画像の問題である。3. 3でも触れた通り、「阪急文化アーカイブズ」では、収録されている資料の画像がインターネット上では公開されていなかったり、画像が公開されていた場合であっても、諸般の事情により画質が必ずしも理想的でないものも含まれていたりする。その結果、資料に記載されている文字列が判読できない場合もある。ただ、それでも、多くの資料の画像をインターネット上で確認できる「阪急文化アーカイブズ」は、日本語研究、特に言語景観研究を行う際には、強力な手段となり得ると考える（註1で引用した當山(2014)の議論も参照²³⁾）。

もっとも、「阪急文化アーカイブズ」に収録された画像を研究成果物に利用する際には、慎重な姿勢が求められる。「阪急文化アーカイブズ」に収録された画像を無断で二次利用（転載、複製、加工等）することは、出版物、テレビ、インターネット等いかなる媒体においても一切認められていないし、画像のみを対象とするリンク、フレームを使ったリンク等を行うことも禁じられていることは、付記しておく。

「阪急文化アーカイブズ」を利用した研究には様々な可能性が秘められているが（演劇史研究、鉄道史研究、デザイン史研究など²⁴⁾、本稿が、日本語研究、中でも言語景観研究の言語資源として「阪急文化アーカイブズ」の可能性（と限界）に注目されるきっかけとなれば、望外の喜びである²⁵⁾。

²³⁾ 具体的には、註1で引用した當山(2014)では、言語景観研究では、調査対象資料（画像）に位置情報を付与することの重要性も指摘している。「阪急文化アーカイブズ」に収録された「①阪急・宝塚ポスター」に位置情報が付与されているわけではないが、それに相当する情報として「場所」や「阪急最寄駅」に関する情報が付与されている（2. 2や註6、註7も参照）。この「阪急最寄駅」の情報をうまく活用すれば、資料の位置情報に相当するものとして利用できるかもしれない。

²⁴⁾ 「阪急文化アーカイブズ」の検索機能を駆使したものではないが、「阪急文化アーカイブズ」に収録された資料を生かした研究として、正木(2019)や野見山(2020)などがある。

²⁵⁾ 今回はインターネット上で資料の画像が閲覧できるということを重視し、「阪急文化アーカイブズ」に収録された資料群の中でも「①阪急・宝塚ポスター」を日本語研究に利用・活用する方法を提案したが、（2.

最後に、「阪急文化アーカイブズ」を言語資源として活用しやすくするための改良のポイント、ヒントなどを含め、「阪急文化アーカイブズ」に対する要望などについては、本稿末尾の「関連 URL」欄に記載した、「阪急文化財団 お問い合わせ」フォーム経由で受け付けている（なお、本稿の随所で触れてきた「阪急文化アーカイブズ」を日本語研究に利用する際の限界、問題点、困難点については、要望等をお寄せいただければ、今後、「阪急文化アーカイブズ」を改良する際に対応できるかもしれない）。

謝 辞

本研究の一部は、JSPS 科研費 17K02718 の助成を受けたものです。

文 献

- 大平晃久(2019).「中学校・高等学校社会科系教科における言語景観の取り扱い」『長崎大学教育学部教育実践研究紀要』18,pp.71-81. (<http://hdl.handle.net/10069/39078> よりダウンロード可能)
- 生越直樹(2018).「多言語社会」日本語学会[編]『日本語学大事典』東京堂出版, pp.602-605
- 真田信治・庄司博史(2005).「はじめに」真田信治・庄司博史[編]『事典 日本の多言語社会』岩波書店, pp.v-vi
- 庄司博史・バックハウス,P・クルマス,F(2009).『日本語の言語景観』三元社
- 當山日出夫(2006a).「京都における「葛」と「祇」の使用実例と「JIS X 0213:2004」—非文献資料にもとづく考察—」『情報処理学会研究報告』2006-CH-70, pp. 53-60
(<http://id.nii.ac.jp/1001/00055030/>よりダウンロード可能)
- 當山日出夫(2006b).「地名用字の今むかし—京都の祇園はどう書くか—」『日本語学』25(14), pp. 62-68
- 當山日出夫(2007a).「非文献資料による文字論の課題—京都における「祇園」を主な事例として—」『立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要』1, pp. 63-73
(<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/sio/about/publication/bulletin.html> よりダウンロード可能)
- 當山日出夫(2007b).「画像デジタルアーカイブの文字研究への利用—「祇園」の表記研究とメタデータの問題点—」『アトリサーチ』7, pp. 111-115
- 當山日出夫(2007c).「文字の伝承と文字コード—「伝統的字体」とはなにか—」『情報処理学会研究報告』2007-CH-74, pp. 17-24 (<http://id.nii.ac.jp/1001/00054987/>よりダウンロード可能)
- 當山日出夫(2007d).「京都の「祇園」の表記—「しめすへん」をどう書くか—」国語文字史研究会[編]『国語文字史の研究 十』和泉書院, pp. 267-281
- 當山日出夫(2014).「景観文字研究の試み—「祇園」の経年変化を事例として—」高田智和・横山詔一[編]『日本語文字・表記の難しさとおもしろさ』彩流社, pp.166-181
- 中野真樹・渡辺由貴(2013).「国立国語研究所「日本語研究・日本語教育文献データベース」

1でも述べた通り)「阪急文化アーカイブズ」には「①阪急・宝塚ポスター」以外に「②浮世絵・番付」や「③民俗芸能」に関する資料も収録されている。このうち、特に「③民俗芸能」については、(方言を含む)日本語研究や言語研究の資料として活用できるかもしれない(ただし、2.1で述べた通り、「③民俗芸能」の資料は、池田文庫内でしか視聴できない)。また、「②浮世絵・番付」に関する資料中に書かれている文字を対象とした日本語研究も可能かもしれない(ただし、この分野は筆者の専門外であり、具体的にどのような研究が可能かについて、ここで述べることはできない)。

- の有用性」『国立国語研究所論集』5, pp.65-76. (<http://doi.org/10.15084/00000504> よりダウンロード可能)
- 野見山 桜(2020). 「「世界のポスター展」について その2: 出品作品研究」『東京国立近代美術館研究紀要』24, pp14-59 (<http://id.nii.ac.jp/1659/00000393/>よりダウンロード可能)
- バックハウス,P(2005). 「日本の多言語景観」真田信治・庄司博史[編]『事典 日本の多言語社会』岩波書店, pp.53-56
- 本田弘之・岩田一成・倉林秀男(2017). 『街の公共サインを点検する 外国人にはどう見えるか』大修館書店
- 正木喜勝(2017). 「「阪急文化アーカイブズ」の公開について」『カレントアウェアネス-E』No.325 (E1913) . <https://current.ndl.go.jp/e1913>
- 正木喜勝(2019). 「恒富、月斗、箕面電車：池田文庫所蔵ポスター《大阪梅田箕面電車》の史料的意义」『阪急文化研究年報』8, pp.1-10
- 松井 茜(2020). 「代官山の集合住宅にみる言語景観の特性—オシャレな地域，代官山の住まいの変化—」『日本地理学会発表要旨集』(2020 年春季学術大会) P108. (https://doi.org/10.14866/ajg.2020s.0_281 よりダウンロード可能)
- 屋名池誠(2003). 『横書き登場—日本語表記の近代—』岩波書店

関連 URL

- 「阪急文化アーカイブズ」(公益財団法人阪急文化財団)
<http://www.hankyu-bunka.or.jp/archive>
- 「阪急文化財団 お問い合わせフォーム」(公益財団法人阪急文化財団)
<https://www.hankyu-bunka.or.jp/inquiry/>
- 「阪急文化アーカイブズの使い方」(阪急文化財団ブログ)
<http://www.hankyu-bunka.or.jp/blog/データベース/1806/>
- 「ミュージアムインタビュー vol.133 公益財団法人阪急文化財団」(早稲田システム開発株式会社)
http://www.waseda.co.jp/museum_interview/133
- 「池田文庫」(公益財団法人阪急文化財団) <http://www.hankyu-bunka.or.jp/ikedabunko/>
- 「日本語研究・日本語教育文献データベース」(国立国語研究所)
<https://bibdb.ninjal.ac.jp/bunken/ja/>
- 「CiNii Articles」(国立情報学研究所) <https://ci.nii.ac.jp/>
- 「おでかけナビ 祇園四条駅」(京阪電気鉄道株式会社)
http://www.okeihan.net/navi/spot/station/detail.php?station_info_no=39